

平成30年度 第10回全体庁議（11月7日開催）

区分	審議・報告	案件名 (担当部)	(4) (仮称) 帯広市学校施設長寿命化計画 (原案) について [学校教育部]
----	-------	--------------	---

■ 提案・報告の趣旨

全国的にインフラの老朽化が進行する中、本市の学校施設についても多くの学校において老朽化が進行し、施設の更新時期を一齐に迎えようとしている。国は平成32年度までに個別施設毎の長寿命化計画(個別施設計画)の策定を要請していることから、本市においても、長期的な視点から施設整備に係るトータルコストの縮減及び予算の平準化を図りつつ、学校施設に求められる機能・性能を確保していくことを目的に、(仮称)帯広市学校施設長寿命化計画の策定を進めてきた。作成した計画原案について、平成30年11月20日の建設文教委員会に報告を行うもの。

■ 提案・報告の主な内容(概要)

(仮称)帯広市学校施設長寿命化計画(原案)の概要は以下の通り

第1章 (仮称)帯広市学校施設長寿命化計画について

学校施設は更新時期を一齐に迎えるため、長期的な視点からコスト縮減等を図りつつ、施設に求められる機能・性能を確保していくことを目的として策定。

計画の期間は、全ての学校施設に大規模改修等を行う上で必要な40年程度を見通したものとし、平成31年度(2019年度)からの10年間とする。

対象施設は、帯広市立の全ての小・中・高等学校41校の校舎及び屋内運動場等とする。

第2章 学校施設に求められる機能・性能

防災・防犯・事故防止の観点による安全性の確保、環境衛生やUDの考えを踏まえた快適性の確保、多様な学習内容・学習形態に対応できる機能性の確保、CO2排出削減など環境への配慮、「社会総がかりでの教育」を実現するための地域の拠点施設の配慮が求められている。

第3章 学校施設の実態

本市の学校施設における児童生徒数は減少傾向、学級数は緩やかな増加傾向となっている。

学校施設は、建築後30年以上経過した建物が67%となっており、他の公共施設に比してその割合が高く、今後一齐に更新時期を迎える状況にある。

平成29年度に学校施設劣化状況調査を実施し、調査結果等から学校毎に劣化度スコアを算出した。

第4章 学校施設整備の基本的な考え方

これまでの改築による老朽化対策から長寿命化改修に転換し、施設を可能な限り長期間利用していく。改修等の実施にあたっては、適正規模の確保等の取り組みや他の公共施設との複合化など、他の計画との整合性を確保しながら進めていく。施設整備の内容については、耐久性・機能性等の向上の観点から、各校の劣化状況等を総合的に勘案した上で、決定していくこととする。

第5章 学校施設整備の進め方

長寿命化改修を進めていく上で、5つのグループに分け、最も優先順位の高いⅠグループについては本計画期間中に長寿命化改修等を目指す。また、Ⅱ～Ⅴグループについても、D評価となった部位について、本計画期間内に優先的に改修を進めることとし、C評価の部位についても改修の効率性や劣化の進行状況等から必要に応じて改修する。

第6章 今後の計画推進

計画の推進にあたっては、常に最新の情報を一元管理していくことや、改修による効果等を確認するなどフォローアップを行っていく。

■ 今後のスケジュール

本年度中の計画策定を目指して取り組んでいく。

- ・平成30年11月 教育委員会、建設文教委員会に計画原案報告
- ・平成30年11月～ 計画案作成
- ・平成30年度内 計画策定
- ※ この間、適宜、所管委員会等で報告を行う

■ 審議結果

- ・同内容で、11月20日建設文教委員会へ報告することで了承された。

■ その他、指摘事項等

- ・特になし